

日農ラッソー乳剤

[アラクロール乳剤]

農林水産省登録 第10777号

有効成分 アラクロール…43.0%

性状 暗赤紫色可乳化油状液体

安全性：普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称）
500ml×20 RACコード：除草[15]

危険物：4-2石-III

有効年限：4年

包装：

特長

- 雑草発生前の土壌処理により一年生雑草、特にイネ科に卓効を示します。
- 除草効果が温度の影響を受けにくい薬剤です。

効果、薬害等に関する注意事項

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使い切る。
- 本剤は、雑草の発芽後ではほとんど効果がないので、雑草の発芽前に散布する。
- タデ科、アカザ科などの広葉雑草には効果が劣るのでイネ科雑草優占ほ場で使用する。
- 発芽直後のきゅうり及びねぎに対しては、薬害を生じるおそれがあるので、付近にこれらの作物がある場合は薬液が飛散してかからないよう十分注意して散布する。
- はくさい、ほうれんそう、だいこん、かぶ、のぎわなでは薬害を生じるおそれがあるので砂質土壌での使用はさける。
- こまつなを使用する場合
 - 砂質土壌では薬害を生じるおそれがあるので使用はさける。
 - は種時の覆土は1~2cmとする。
 - 薬剤処理は土壌表面が乾いた状態で行なう。
 - 薬剤散布後の過剰の灌水はさける。
- 有機物を多く含む土壌や粘質土では、効果が劣る場合があるので、所定範囲の高薬量で使用する事が望ましい。
- いちごに使用する場合
 - 親株床では植付後及びランナー発生時の2回、また本圃では定植後及びマルチ前の2回散布し、体系で処理すると有効である。
 - 本圃では、なるべく株に薬液がかからないように注意し、暖地では株間処理した方が安全である。
 - 半促成栽培では、株間処理をする。
- いんげんまめに使用する場合、金時類（白金時類は除く）、中長うずら類にのみ使用する。
- たばこに使用する場合
 - 改良畦面被覆栽培では薬害を生じるおそれがあるので使用をさけ、無被覆栽培、普通畦面被覆栽培では定植前10~20日（畦面被覆の場合は被覆の前）に処理する。
 - 本剤の処理によって初期生育が抑制されることがあるので、処理後定植までの日数は所定範囲でなるべく長くとするようにする。
- さとうきびに使用する場合、ツノアイアシには効果が劣る。
- ソルガムに使用する場合
 - 砂質土壌では薬害を生じるおそれがあるので使用はさける。
 - は種時の覆土は3cm以上とする。また散播では使用しない。

- 3)薬剤処理は土壌表面が乾いた状態で行なう。
- 4)激しい降雨の予想される場合は使用しない。
- 5)ソルガムは品種が多く薬剤に対する品種間差もあるため、使用の際は必ず病害虫防除所等関係機関の指導を受ける。
- はとむぎに使用する場合
 - 1)砂質土壌や有機物の少ない土壌、過湿な土壌では薬害を生じるおそれがあるので使用はさける。
 - 2)は種時の覆土は3cm以上とする。
 - 3)薬剤処理は土壌表面が乾いた状態で行なう。
 - 4)激しい降雨の予想される場合は使用しない。
- 本剤は自動車などに散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないように注意する。
- 本剤の散布や、調製に使用した器具類は、使用後水で十分洗浄する。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意事項

- 誤飲などのないよう注意する。
- 万一誤って飲み込んだ場合には、吐き出させないで、安静にして直ちに医師の手当を受けさせる。使用中に身体に異常を感じた場合には、安静にして直ちに医師の手当を受ける。
- 原液は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 皮膚に対して刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意する。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。
- 散布の際は防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用する。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換する。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯する。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意する。

水産動植物に対する注意事項

- 水産動植物（藻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

適用内容

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	使用量		本剤の使用回数	使用方法	適用地帯	アラクロールを含む農薬の総使用回数		
				薬量	希釈水量						
なし	一年生雑草	春～秋期 (雑草発生前) 但し 収穫21日前まで	全土壌	500～ 600ml /10a	100ℓ /10a	2回以内	全面土壌散布	全域	2回以内		
ぶどう		春～秋期 (雑草発生前) 但し 収穫45日前まで									
とうもろこし		は種後出芽前		200～ 400ml /10a		北海道		1回	雑草茎葉散布又は全面土壌散布	北海道を除く全域	1回
	一年生イネ科雑草	生育期1～2葉期 (イネ科雑草2葉期まで)		300～ 600ml /10a			北海道				
飼料用とうもろこし	一年生雑草	は種後出芽前		300～ 600ml /10a		300～ 600ml /10a	1回	全面土壌散布	北海道を除く全域	1回	
	一年生イネ科雑草	生育期1～2葉期 (イネ科雑草2葉期まで)		200～ 400ml /10a							北海道
はとむぎ	一年生雑草	は種後出芽前		300～ 600ml /10a		100ℓ /10a	2回以内	全面土壌散布	全域	2回以内	
かんしょ		挿苗後 (雑草発生前) 但し 収穫90日前まで									
ばれいしょ		植付後 (雑草発生前) 但し 植付14日後まで		200～ 400ml /10a			北海道	1回	全面土壌散布	北海道	1回
だいず らっかせい えだまめ		は種後出芽前		300～ 600ml /10a							
いんげんまめ		定植8日後まで	300～ 400ml /10a	1回	全面土壌散布		全域	1回			
キャベツ											
ブロッコリー			定植後 (雑草発生前) 但し 収穫60日前まで						150～ 200ml /10a		

作物名	適用雑草名	使用時期	適用 土壌	使用量		本剤の使用 回数	使用方法	適用地帯	アラクロールを含む農 薬の総使用 回数
				薬量	希釈水量				
はくさい ほうれんそう だいこん かぶ のぎわな	一年生雑草	は種直後	壤土 ～ 埴土	150ml /10a	100ℓ /10a	1回	全面土壌散 布	全域	1回
こまつな				50～ 100ml /10a					
いちご（親株床） いちご（子苗床） いちご（本圃） いちご（施設栽培）	一年生雑草	植付後 又は定植後 （雑草発生前） 但し 収穫60日前まで	全土 壤	150～ 200ml /10a		2回以内	全面土壌散 布又は株間 土壌散布	北海道	2回以内
てんさい （移植栽培）				移植後 （雑草発生前） 但し 収穫60日前まで					
てんさい （直播栽培）	一年生イネ科 雑草	中耕培土後 （雑草発生前期） 但し 収穫60日前まで	九州 沖縄	2回以内					
さとうきび （株出）	カワリバトウ ダイ	株出管理後90日まで （雑草発生前）				400～ 600ml /10a	2回以内	全面土壌散 布	1回
さとうきび （春植又は夏植）	一年生雑草 カワリバトウ ダイ	植付後 （雑草発生前） 但し 植付90日後まで	300ml /10a	2回以内		2回以内			
ソルガム	一年生雑草	は種直後 （雑草発生前） 桑発芽前 （雑草発生前） 定植前 10～20日 （雑草発生前）	全土 壤				400～ 600ml /10a	1回	全面土壌散 布
桑				200ml /10a		1回			
たばこ （無被覆栽培） たばこ （普通畦面被覆栽 培）				100ml /10a					
たばこ （折衷マルチ栽培）									

製品写真



最新の登録内容はこちら

